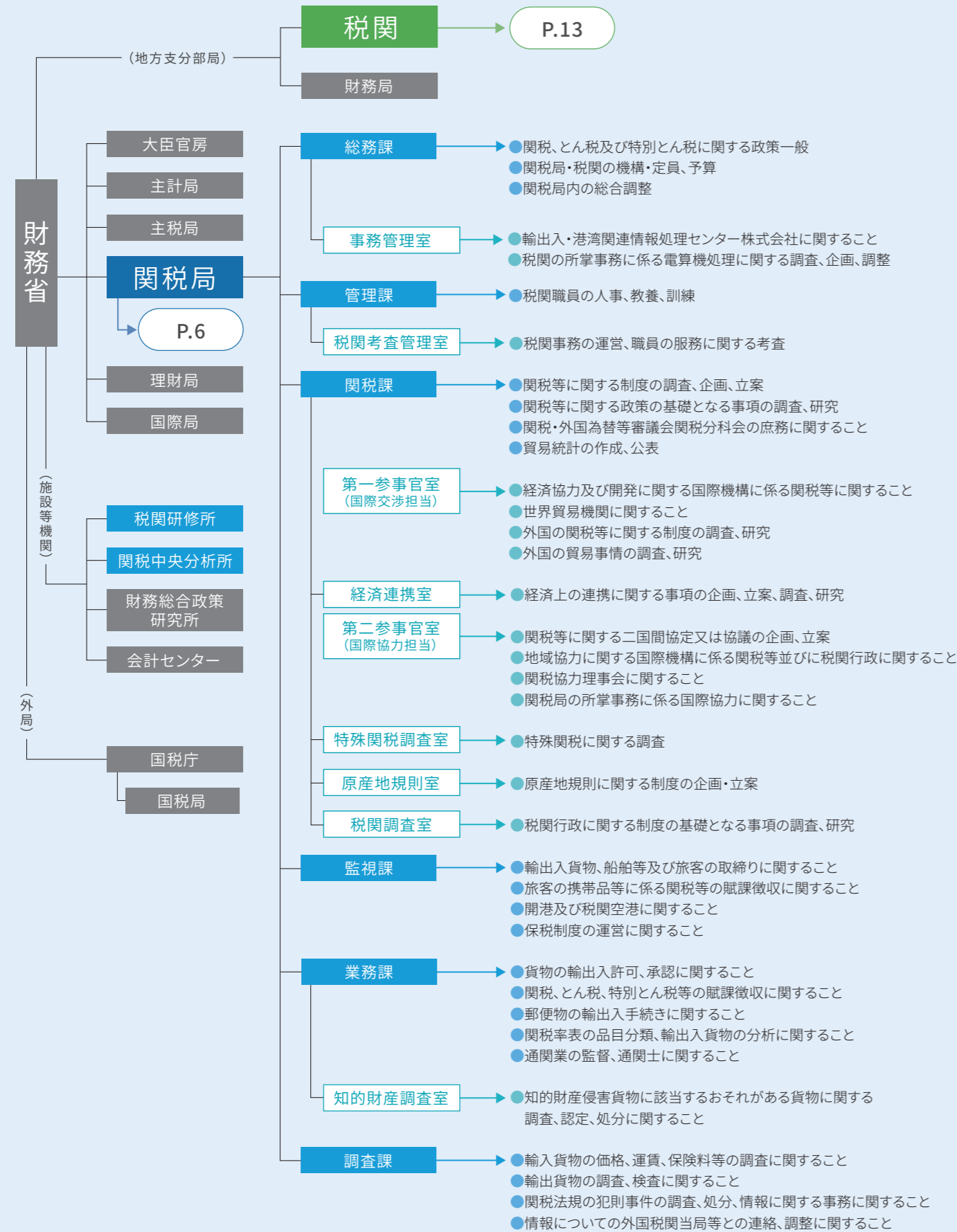








財務省税関の組織



業務紹介 財務省関税局

財務省関税局は、関税政策・税関行政の企画立案、諸外国との交渉・調整、途上国支援等の業務を通じ、直接的・間接的に税関の3つの使命の実現を目指しています。関税局が所掌する幅広い業務について、各担当職員からご紹介します。

MURAKAMI Yuichi		関税政策 村上 裕一 大局的な見地から 関税政策をリードする	P.7
TAKANO Sho		関税政策 高野 翔 経済・外交政策 としての関税制度	P.8
WATANABE Tomoyoshi		税関行政 渡邊 智義 厳格な水際取締りと 迅速通関	P.9
SASAKI Asuka		税関行政 佐々木 明日香 人生を豊かにする 職場選択	P.10
HIRATA Tetsuya		国際交渉 平田 哲也 移り行く国際政治・経済の 動きの中で	P.11
TAMAKI Riki		国際協力 玉木 力 関税・税関分野における 国際協力	P.12



村上 裕一
MURAKAMI Yuichi
関税局関税課上席調査官
平成23年度入省



高野 翔
TAKANO Sho
関税局関税課企画第一係長
平成28年度入省

大局的な見地から関税政策をリードする

関税政策の実現に向けて

グローバル化が進展する中、ヒトやモノの交流は著しく活発化しており、貿易の第一線にある税関の役割は、近年ますます重要になっています。財務省税関では、①安全・安心な社会の実現、②適正かつ公平な関税等の徴収、③貿易の円滑化の推進を使命に、秩序ある貿易の発展に貢献しています。貿易の発展は国民生活を豊かにする大きな原動力です。関税局では、輸入品に課される関税の引上げ・引下げや各種の関税制度の整備・改善等の「モノ」に着目した関税政策を通じて、より豊かな社会の実現をサポートしています。

私の所属する関税課での最も大きな仕事は、関税政策を企画立案すると共に、所掌する関税関連法の改正作業を通じて、これを実効性あるものに形作っていくことです。政策の検討にあたっては、政府内で議論を尽くすことはもちろん、外部の有識者で構成される関税・外国為替等審議会等での審議を経て、その方向性を固めていきます。政策の方向性が固まった後は、これを具体化するために、法律の改正作業を進めていきます。自身の関与した法律が今後の貿易に与える影響に思いを巡らせながら、緊張感を持って日々の業務に臨んでいます。

常にフラットな思考で

関税政策の企画立案にあたっては、関税の持つ国内産業の保護機能に留意しつつ、国内の生産者を取り巻く状況、輸入者・消費者への影響、社会情勢の変化等を踏まえ、総合的な検討を行います。その際には、

現在の関税率・関税制度の設定は生産者の実態に即したものであるのか、消費者利益の観点から社会情勢の変化にどう対応するべきかなど、様々な角度から検討を行うよう心掛けています。例えば、生産者と消費者、それぞれの利益が相反する中で、国益を最大化するための最大公約数となる解をどのように見出していくか。先入観にとらわれず、常にフラットな思考で議論に臨むことが重要です。どちらか一方の立場に偏りすぎることなく、中立的な立場から議論全体のバランスを取り、より大きな視点を持って解決策を導き出す。これこそが関税政策を担う財務省税関総合職に求められる役割であり、この仕事のやりがいだと感じています。

財務省税関を志す皆さんへ

財務省税関では、前述の関税政策の企画立案・法律の改正作業のみならず、幅広い業務に携わることが出来ます。私自身のこれまでの10年間を振り返ってみても、経済連携協定等の国際交渉や税関の旅客の取締りや不正薬物等の密輸事件の調査(税関)、外交官としての海外赴任(他省庁)など、多くの経験を積ませてもらいました。これらの多様な経験を通じて、国家公務員としての「体幹」が少しずつ鍛えられているのではないかと感じています。財務省税関は、自身が成長するための多くの可能性と機会を与えてくれる、そんな魅力的な職場だと思います。皆さんと一緒に仕事できる日が来ることを楽しみにしています。



My private time

休日は家族とのんびりとした時間を過ごしています。特にこの1年間は、家族と自宅で過ごす時間も多かったため、子どもたちが楽しい時間を過ごすことができるように、お絵かきボードやドレッサーなどをDIYしてみたり、お菓子の家を作ってみたりと色々トライしています。天気の良い日は、近所を散歩したり、公園でピクニックしたりもします。仕事もプライベートも充実するよう、オンオフのメリハリのある生活を意識しています。

経済・外交政策としての関税制度

関税政策とは

関税課は関税政策の企画・立案を行っており、より具体的に言えば、輸入品に対する関税率の設定やどういった物品を関税の免税措置を受けるべき対象にするか、などの関税制度の大枠を担当しております。私が所属する係においては鉱工業品(簡単にいうと農産品以外のすべてのもの)の関税率の改正等を担当しており、我が国の国内生産状況や、我が国の産業と消費者双方の利益等を考慮して関税率を設定しております。関税率の改正は、時として企業や社会全体に与える影響も少なくなく、その責任の大きさが仕事のやりがいにつながっていると感じております。

上記に加え、私が所属する係は、特殊関税制度という制度も担当しており、幅広い視野から関税政策を見ています。特殊関税制度とは、通常課される関税以外の関税を指し、報復関税、相殺関税、不当廉売関税、緊急関税等の関税を指します。これらの発動に際しては、WTO協定上の厳格なルールが定められており、発動する際にはその協定整合性を特に意識して法令の改正をしなければならず、ときにはWTOの場で争われた過去の裁判事例などを参照します。日本が当事者になる例も少なくなく、WTOの紛争解決手続きの議論を見守りながら、我が国が有する利益が損なわれないように国際情勢にも目配りしております。

世界貿易と関税政策

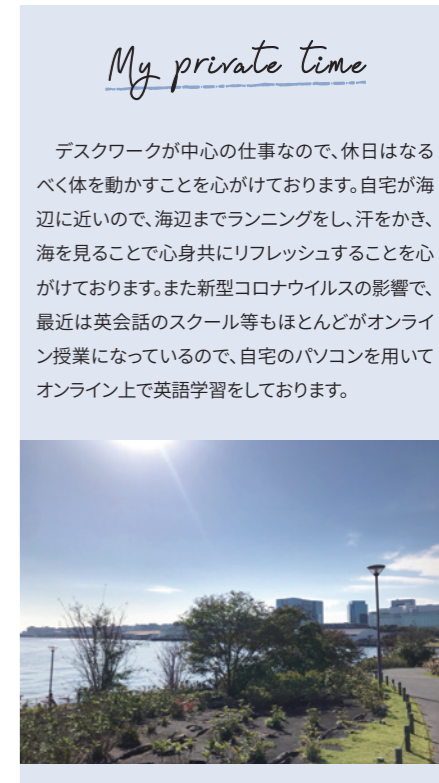
第二次世界大戦の遠因は各国が関税を引き上

げて保護主義的な貿易を行ったことと言われるように、関税をめぐる争いが紛争の種になることがあり、近年の米中貿易紛争もその典型例と言えるでしょう。また関税のみならず最近では新型コロナウイルスの感染症の拡大に伴い、一部では医療物質や穀物の輸出制限措置をとる国も現れました。各国の経済活動がより一層緊密に結びつき、貿易量が増大していく一方で、その分貿易をめぐる紛争は減少していくどころか増えていくようにも感じられます。各国との貿易量が増え、わが国が締結する経済連携協定の数も飛躍的に増加する中で、我が国の産業と消費者の利益が適切に守られるようにするのが関税政策の基本であり、今後も関税政策は我が国の経済・外交政策の重要な柱であり続けると考えます。

財務省税関を志す方へ

現在私が勤務している関税課においては、法律学の知識はもちろんのこと、鉱工業製品を理解するための理化学系の知識も必要とされます。また経済学の知識も求められる場面もあれば、統計の知識も求められる場面があります。もちろん私もすべてを持ち合わせたく入省したわけではなく、諸先輩や部下職員、ときには他省庁の人から教を請い、日々額に(冷や)汗をかきながら業務に関連する事項を学び、職務を果たしています。裏をかえせば、理系文系の垣根を超えて、どのようなバックグラウンドの人でも活躍できる場があります。関心がある方も今はまだない方もまずは一度説明会等

でゆっくりと財務省税関の業務内容を聞きに来ていただければと思います。



My private time

デスクワークが中心の仕事なので、休日はなるべく体を動かすことを心がけております。自宅が海辺に近いので、海辺までランニングをし、汗をかき、海を見ることで心身共にリフレッシュすることを心がけております。また新型コロナウイルスの影響で、最近では英会話のスクール等もほとんどがオンライン授業になっているので、自宅のパソコンを用いてオンライン上で英語学習をしております。



渡邊 智義
WATANABE Tomoyoshi
関税局監視課監視取締調整官
平成5年度入省



厳格な水際取締りと迅速通関

安全・安心な社会の実現と貿易円滑化の両立

神奈川県久里浜からのフェリーが着く千葉県浜金谷港の近くに、三浦半島に沈む夕日を眺めながら温泉に入ることができる日帰り入浴施設があります。新鮮な地魚を堪能できる食堂も隣接しており、温泉好き、新鮮な海鮮料理好きにはたまらないところです。夕刻、ここで温泉に浸っていると、沈みゆく夕陽の美しさとともに、浦賀水道をひっきりなしに往來する大型コンテナ船に目を奪われます。

心身リフレッシュのため、休日はできるだけ仕事のことを考えないようにしている私ですが、この光景を眼前にすると、「コンテナの中に覚醒剤などの社会悪物品やテロ関連物資などが隠されていないだろうか」、「貨物を必要としている人に迅速に貨物が届くだろうか」といったことが否応なく頭に浮かび、改めて関税局・税関の果たしている役割の重要性を認識し、身が引き締まる思いになります。

経済・社会のグローバル化、ボーダーレス化の進展を背景に、国際的な物流や人的交流が拡大する中、国民生活の安全・安心を脅かす麻薬・覚せい剤などの社会悪物品、テロ関連物資等の密輸のリスクが高まっており、特に不正薬物については、2019年にその押収量が史上初めて3トンを超え、わが国への流入が極めて深刻な状況となっています。関税局・税関では、その使命の一つである「安全・安心な社会の実現」のため、こうした社会悪物品、テロ関連物資等の厳格な水際取締りを実施しています。

冒頭、東京湾を往來する大型コンテナ船の多さに

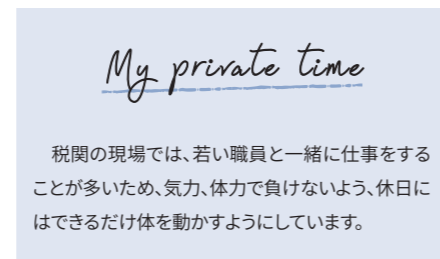
触れましたが、海外からわが国に到着する貨物の量は膨大であり、税関でその一つ一つを全て検査するとなれば、貨物到着から通関までかなりの時間を要することとなり、その結果、物流が滞って、国民生活に支障が生じる、すなわち、同じく税関の使命の一つである「貿易の円滑化」の実現を妨げることとなります。このため、関税局・税関では、これまでに蓄積してきた輸出入にかかる様々な情報、国内外関係機関から入手した情報などを活用したハイリスク貨物の絞り込みや、大型X線検査装置、不正薬物・爆発物探知装置などの先端技術を用いた取締機器の活用による効果的な検査を実施し、社会悪物品、テロ関連物資等の流入の阻止を図るとともに貨物の適正かつ迅速な通関を図っています。

厳格な水際取締りと貨物の迅速な通関を両立することは容易ではありません。関税局監視課では、より効果的な検査を実施するため、必要な法令等の整備、さらに有効な取締機器の導入や国内外の関係機関との連携強化などに取り組んでいます。

幅広い活躍の場

一部前述しましたが、関税局・税関は「安全・安心な社会の実現」、「貿易の円滑化」、「適正かつ公平な関税等の徴収」という3つの使命を掲げており、これらの使命を果たすため様々な業務を行っています。今回私がご紹介した監視課における業務はその一部であって、関税局・税関には、幅広い活躍の場が用意されています（詳細は他の職員の記事をご参照ください）。私自身、海港、空港における水際取締りの

ほか、WTOや経済連携協定にかかる国際交渉、ODA、事後調査、特殊関税など、多岐にわたる業務に従事してきました。関税局・税関の3つの使命に関心をお持ちの方は是非説明を聞きにきていただけたらと思います。



佐々木 明日香
SASAKI Asuka
関税局業務課統括調査官
平成16年度入省

人生を豊かにする職場選択

「適正かつ公平な関税等の徴収」のために「1601.00-000」

さてこれは何を意味するのでしょうか。答えはソーセージです。日本では、世界共通のHSコード（各品目に割り当てた数字6桁）をベースに、関税率表でより細かく税率を設定し、統計品目表で更にこれを細分化して数字3桁を付加。合計9桁の番号を各品目に割り当てています。HSコードは、概ね5年ごとに改正されるため、これに従い我が国の統計品目表等も改正することとなります。

話は長くなりましたが、現在、私はこの改正業務を担当しています。次期HSコードでは、電子たばこやドローンを分類する番号が新設されるほか、先に示したソーセージには、昆虫でできたものも含まれることが明確化されます。また、我が国の提案により、日本企業の強みを活かした技術進展を反映した改正もあります。

こうして決められる分類体系ですが、輸入貨物は多様でかつ商品サイクルも早いので、分類が容易でない場合もあり、関税局で特に慎重な検討を行います。分類は適用税率等にも影響するため、税関との連携を密にし、全国の税関における統一的な適用を確保することは重要な業務の一つです。「適正かつ公平な関税等の徴収」の根幹を成すといっても過言ではないでしょう。

日本の経済活動の一端を担う責任

公務員の仕事は成果が見えづらいと思われがちです。確かにその要素はあります。一方で、輸出入さ

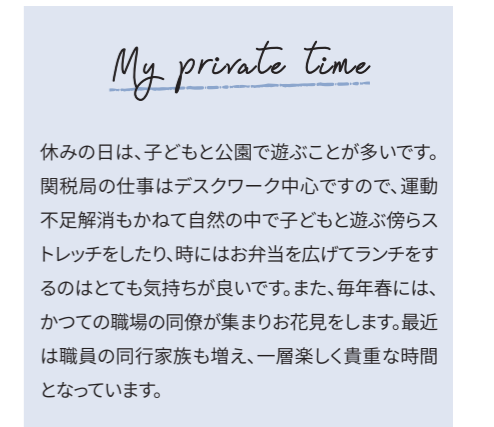
れる大量の貨物は全て税関に申告され必要な手続を経ており、利益を追求する民間企業等の経済活動に密接にかかわっていると実感できる場面がしばしばあります。例えば、品目分類は少し異なると収める関税額が大幅に増減し事業収益に直結しますし、知的財産侵害物品の取締りを通じて企業の置かれている深刻な状況を知ることができます。

これからは、デジタル社会に対応して通関手続をさらに見直していく必要がありますが、事業者との意見交換を通じて想定していなかった商慣行が見えてくることもあり、より利便性を高めるためには税関側の制度・システムの見直しにおいて、企業との連携が不可欠だと気づかれます。成果は見えづらくとも、日本の経済活動の一端を担っているという責任を重く感じながら目の前の業務に真摯に向き合うことが大切だと感じています。

ワークライフバランス

どんな職場にいてもオンとオフの切替えは重要だと思います。入省間もない頃は、仕事を終え終電で友人の飲み会に合流し、週末は旅行や趣味の陶芸に打ち込んでいました。今は、フレックスタイムとテレワークを活用し、業務時間外は育児を楽しんでいます。「仕事と育児の両立」とはよくいいますが、これは制度の活用をベースに、職場の上司・同僚の理解と協力があって初めて成立するものです。幸運なことに出産後、現在に至るまで周囲の方々の支えにより両立させてもらっており、心から感謝しています。バランスは人それぞれですが、個々の人生サイクルに合

わせてオンとオフを切り替えられる職場環境が整っていると思います。



業務紹介 財務省関税局

国際交渉

平田 哲也

HIRATA Tetsuya
関税局経済連携室
大臣官房企画官
平成10年度入省



国際協力

玉木 力

TAMAKI Riki
関税局総務課
システム協力専門官
平成11年度入省

移り行く国際政治・経済の動きの中で

経済連携協定の次の時代へ

財務省関税局経済連携室において主にRCEP(地域的な包括的経済連携)協定を担当しています。RCEP協定は日本のほかASEAN10か国、中国、韓国、豪州及びNZが参加する経済連携協定(EPA)ですが、2020年11月15日、8年に渡る交渉を経て署名がなされました。財務省は外務省等の関係4省庁の一角として各種EPA交渉に携わっており、主に①財務省所管物資(酒・たばこ・塩)の市場アクセス交渉、②EPA実施のための関税関係法令の手当て、③税関におけるEPAの執行という観点から参画しています。

特にここ数年、TPP11(環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定)、日EU経済連携協定等のいわゆるメガEPAが発効しているところですが、RCEP協定が発効した暁には日本の貿易量に占めるEPAカバー率が8割に達し、EPAの進展という意味で一つの節目を迎えることとなります。税関での業務という意味でも今後はEPA税率の適用、執行がメインの業務となることが見込まれます。

入省から20年余りが経ったところですが、ウルグアイラウンドの終了後のWTO(世界貿易機関)の時代から、EPAの時代への変遷の中で直接的、間接的に多くのEPA交渉や制度面、執行面での対応をしてきており、貿易面を中心に国際政治・経済の変化をフロントラインで体験させて頂きました。

EPAの次に何が待っているのかは現時点では予測が付きませんが、ワクワクするような国際貿易交渉や

国際政治・経済の変化があるはず。次の時代を担う皆さんのお越しをお待ちしています。

バランス感覚を大事に

仕事をしていく中で一番大事にしているのはバランス感覚です。常に対立利益とは何かということ意識し、偏った結論にならないよう注意しています。例えば関税撤廃交渉にしても関税撤廃によって利益を得る輸入者や消費者の立場、国内産業保護の立場から不利益を被る可能性のある生産者の立場の両方を考えてバランスの取れた結論に導いていく必要があります。また仕事とプライベートとのバランスも大事になってくると思います。根を詰めて仕事をしていくことも大事な時もありますが、疲れている時には早めに仕事を切り上げてプライベートの時間を持った方がかえって頭がすっきりして次の日の仕事がスムーズにいくことも多いです。ワークライフバランスも十分に確保できる職場環境です。

一貫したキャリアプラン

こうしたバランス感覚は、一貫したキャリアプランによって自然と与えられてきていると思います。財務省・税関総合職としての仕事内容は、仕事を始める前には考えも及ばなかったくらい幅広く、私自身も米国留学(長期在外研修)や欧州での大使館勤務、国内では税関現場での勤務を経験したほか、関税局での国際交渉、法令改正、税関執行と関税・税関分野を軸に幅広く仕事をしてきています。これは総合職という職種であることに加え、関税・税関とい

う分野が世の中の輸出入されるあらゆるモノと繋がっていることに因りますが、そうした中でも関税・税関というしっかりとした専門性のある中で一貫性をもって国際面、国内面双方でバランスの取れたキャリアアップをさせてくれる職場でもあると実感しています。

My private time

好きな飲み物はワインです! 職場内外でのワイン会を通じて素晴らしい方々との人の輪が広がっています。その他にも、ワインに関連した歴史、文化、芸術、地理を学んだり、様々な国や地域のワインとペアリングできる料理をグラス片手に作ったりして楽しんでいます。オフタイムにはワインスクールに通っていますが、仕事にも関係するワインの関税や貿易量、地理的表示の法令などを教えてもらうこともあり、まさに一石二鳥の趣味です。今後も体気をつけながら楽しんでいきたいと思っています。



関税・税関分野における国際協力

関税技術協力による途上国支援

財務省関税局では、開発途上国において税関行政の近代化や貿易円滑化を進めるため、関税・税関分野における技術協力を積極的に実施しています。税関行政の近代化や貿易円滑化は、開発途上国における適正公平な税関手続を確保すると共に、通関の迅速化につながり、日系企業の海外展開の側面支援にもなり得るものです。これら技術協力の対象国としては、日本と地理的・経済的な関係性が深いASEAN諸国を中心に、アフリカ地域、中南米地域、大洋州地域など多岐にわたります。また、技術協力の具体的な内容としては、日本に途上国税関の職員を招へいする「受入研修」と、日本の税関職員を専門家として途上国に派遣する「専門家派遣」などがあります。更には、これら人的・知的な支援に加え、関税・税関行政の国際協力等を推進する国際機関であるWCOを通じた資金的な貢献も行っています。

この中で、現在私が担当しているのがミャンマーに対する技術協力です。特に、ミャンマーへは、日本の通関システムであるNACCSをベースとしたシステムが日本の支援により導入されていますが、現在は、このシステムの着実な運用と活用によるミャンマー税関の近代化及びミャンマーにおける貿易円滑化に向けた取組を支援しています。

「変化」に対応した支援

私が着任する以前においては、日本の税関職員を専門家として現地に派遣すると共に、関税局から

も担当職員が、月の半分ほどは現地へ出張して支援を行っていました。一方、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大を受け、現地への渡航が困難となり、これを書いている時点では、まだ現地へ渡航できていない状況です。しかしながら、このような状況でも、ウェブ会議システムを用いるなどして、ミャンマー税関職員と議論を重ね、継続的な支援を実施しています。

オンラインによる技術支援は職員の物理的な移動を必要としないので、よりフレキシブルに実施できるといった長所もあります。新型コロナウイルス感染症により仕事のやり方にも様々な変化が生じていますが、これまで以上に様々なツールを使い分け、創意工夫をすることで、時代の変化に対応し、その時々に応じた支援を行っていくことが必要であると考えます。

財務省税関を志す方へ

「税関」と聞くと、海外旅行から帰国した際に空港で荷物チェックを受ける場面を連想するかもしれませんが、実際、財務省税関へ採用されると、空港や港といった全国各地の税関官署における現場業務に加え、財務省関税局での関税政策の企画立案や国際協力等に関する業務、更には、関税局以外の他局や他省庁での業務、そして、WCOといった国際機関等における海外勤務など、様々な業務に携わるチャンスがあり、多様な経験を積むことができます。財務省税関は、幅広い分野で活躍したいと考える皆さんをお待ちしています。

My private time

いわゆるコロナ前においては、休日は、スポーツジムへ行くか、近くの公園などをランニングして汗を流し、リフレッシュしていました。一方、コロナ後は、もっぱら家でヨガマットやゲーム機を用いて汗を流すこととしています。

また、もう一つの趣味としてお酒を嗜むところ、機会があれば、休日にはお酒のセミナーなどに参加していました。これもコロナ後はできなくなってしまったので、コロナの早期収束を祈りつつ、今は、今できることを、いろいろ工夫しながら余暇を過ごしています。

